

魔法の medicine プロジェクト 活動報告書

報告者氏名: 逸見利香 所属: 山形県立ゆきわり養護学校 記録日: 2021年2月21日

キーワード: 気持ちを伝える, 生活の充実, 主体的活動

【対象児の情報】

・学年

高等部2年生の男子生徒

・病名

病弱

・障害と困難の内容

- ・自分の気持ちを言葉で伝えることが苦手である。色々なことを伝えたいが、考えがまとまらず言葉にするまでに時間がかかってしまう。また、伝えることができないことで悩み、卒業後の生活について不安を抱えて過ごしている。
- ・入所生活でのさびしさや学校で心配なことがあると泣いていることが多い。そのため、食事を食べることができなくなり気分が落ち込んでしまう。
- ・側弯があり、車いすでの姿勢保持がつかなくなっていて疲れやすい。

【活動目的】

・当初のねらい

iPhone を活用した取り組みを通して、家族と毎日連絡を取り安心感を持ち、病院や学校で充実した生活を送ることを当初のねらいとした。保護者と本人、担任で情報を共有することにより、本人の気持ちに寄り添った進路学習をねらった。以下3点の学習目標をもって活動に取り組んだ。

- 1 iPhone を活用して余暇活動を広げ、日常生活の充実を図る。
- 2 自分の気持ちを表現する方法を知り、スタンプや言葉、写真や映像で相手に伝えることができる。
- 3 体験的な活動を通して成功体験を積み重ね、自己肯定感を高める。

・実施期間

・2020年5月中旬～2021年2月。

(登校日である毎週火、金曜日の自立活動、国語。)

(月、水、木曜日は、入所先と学校とのコミュニケーション手段として実施した。)

・実施者

逸見利香

・実施者と対象児の関係

担任

【活動内容と対象児(群)の変化】

対象児の事前の状況

(生徒の置かれている環境や現状について)

- ・普通小学校に入学し、中学年より本校に転校。寄宿舎へ入舎後、高等部より本校併設の病院に入所した。
- ・定期的に父、母、本人、入所施設の相談支援員等と面談を行い、入所施設や家庭での過ごし方、卒業後の進路について相談を重ねてきた。
- ・入所している病院の新型コロナウイルス対策のため、2020年3月より帰省できない状況にある。保護者に会えない日が続いている。
- ・2020年3月よりすべての食事が病院食。食事はいつも6割程度食べているとのこと。食事の味付けや食事の形態(普通食でない食事)のことで全部食べる気になれないようである。
- ・電動車いすを自分で操作して移動できる。
- ・右側弯で、常に上半身と両下肢に装具をつけている。
- ・側弯の進行により、車いすに長時間座り続けることが難しくなってきている。時折車いすの背もたれに寄りかかっていることがある。
- ・両腕の可動域は、肘を中心に動かし太ももに置いた状態から左右上下10cm程。体を左右に揺らして勢いをつけ、体全体の力を加えることで、可動域は15cm程になる。

(学習面について)

- ・30cmまでの長さやデジタル計を使用した重さの計測など体験的な学習を好み、自分から意欲的に取り組んでいる。
- ・作業学習で縫製に取り組んでいる。指先が器用であり、ミシンでの工程を担当している。丁寧な仕事を友達から褒められていた。
- ・卒業後の進路を考える学習では、どうしたらよいか悩んでおり考えている間に黙ってしまい泣いてしまうことがあった。

(コミュニケーション)

- ・人に慣れるまでに時間がかかる。慣れた友達や教師の話を笑顔で聞いている。自分から話すことは少ない。
- ・温厚な性格で、誰にでも優しく友達に労いの言葉をかけることができる。

(携帯・タブレット等の操作や活用について)

- ・高等部1年生でiPadを購入。学習で使用したり家庭でゲームをしたりしていた。また、写真機能を活用し、写真展に出品した。
- ・iPadを持ったまま操作したり電源を入れたりすることに時間がかかり、支援を依頼して使用していた。

活動の具体的内容

ねらい I iPhone を活用して余暇活動を広げ、日常生活の充実を図る。

活動① 写真機能アプリを活用する。

クラスメイトから目的を決めて取り組もうと提案があり、県内の作品展や肢体不自由児・者写真展に出品することを目標に活動を実施した。操作方法を一緒に確認した後、本人にすべてを任せて取り組んだ。

活動② 様々な余暇活動を体験し、自分に合った余暇活動を見つけていく。

余暇を過ごすときにゲームのみであった生徒に、ゲームや読書、音楽等の余暇活動を体験できるようにし、自分に合った余暇活動を見つけ、日常生活の充実を図ることをねらいに実施した。余暇活動の充実と共に、様々な方法でiPhoneの操作ができるようにBluetoothマウスを活用して、手段の幅も広げることができた。

ねらい2 自分の気持ちを表現する方法を知り、スタンプや言葉で相手に伝えることができる。

活動③ 家族に自分の気持ちや考えを、スタンプや言葉で伝える。

家族と会えず悲しい気持ちや不安の多い生活の中、iPhone を活用することで自分の気持ちを表現し、生活の中に楽しみを見出すことができるように実施した。

活動④ 教師に自分の気持ちや考えを、スタンプや言葉で伝える。

登校できない日に、担任とやりとりをして自分の気持ちを伝えることに取り組んだ。6/23(火)から実施した。

ねらい3 体験的な活動を通して成功体験を積み重ね、自己肯定感を高める。

活動①から④の活動を通して、「できる。」という経験を積み重ねることで自己肯定感を高めていき、安心して卒業後のことを考えていけるように取り組みを行った。

対象児の事後の変化

活動① 写真機能アプリの活用



(写真)畑の作物にピントを合わせ、
撮影中のAさん

(使用したアプリ:カメラ, google ドライブ, google ドキュメント)

以前使用していた iPad より安定して撮影に臨むことができることで、撮影したいものにピントを合わせ、シャッターを自分で切ることができた。電動車いすで自由に移動し、校内外の自分の気に入った場所に移動したり、物に近づいたりして主体的に写真撮影に取り組むことができた。校内で自分が気に入った場所やおもしろい様子を撮影し、担任以外の教師に自分から写真を見せながら話をするこも増えてきた。昨年度の写真は漠然と風景写真であったが、今年は撮りたい物に焦点を合わせて撮影できるようになったことで、自分で昨年度との出来映えの違いに気付き、「今年は賞が貰えるかも。」と友達に話をする姿があった。また、写真機能アプリを学習の場面で活用することが増えた。



(写真)Aさんが国語の学習で作成した新聞

11月から取り組んだ国語の新聞学習では、教師が作成した新聞の枠を

google ドライブで共有し、google ドキュメント内で新聞作りに取り組んだ。

9月から自立活動で取り組んだ「吹き矢」の活動について書くことを決め、11月から1月の9時間で作成した。時間をかけて自分の言葉で文章を完成させた。

写真は、自分の姿を撮影して取り込み新聞に載せて提出していた。新聞の編集後記では、「ぼくは、携帯電話【iPhone】を活用して新聞を作りました。携帯電話の良い点は、マウスと指を使って自分で入力することができるからです。だから、もっと学習で使えるようにしたいです。」と自分の気持ちを綴っていた。



活動② 様々な余暇活動を体験し、自分に合った余暇活動を見つけていく。

(使用したアプリ:MARIORUN, Apple Music)

活動の幅を広げるために、様々な活動を提案して取り組んだ。ゲームや読書は楽しさを実感できる反面、体が疲れてしまうことがあった。そこで、Bluetoothマウスを活用して操作を行い取り組んだ。本や絵本を読むことは、視力が弱いため疲れてしまうようであった。画面に集中し続けることが苦痛になり、楽しみの一つにはならなかった。しかし、様々なアプリを経験する中で、iPhone の操作が簡単にでき



(写真)一人で、音楽を聴くAさん



ることが自分でも分かり、手応えになり、自信になっていった。自分一人ですべてできるという自信がついたことで、様々なことをやってみようという思いも増えてきた。そして、iPhone を操作する中で、自分の好きな音楽を聴き、余暇を過ごすという楽しみを自分で見つけることができた。楽しみが増えたことで、一人である時間も楽しみの一つになった。休み時間には鼻歌を歌い、「この曲、お母さんが好きな曲です。」と話したり、「カラオケに行きたいな。」と自分の気持ちを伝えたりする場面が増えてきた。入所先での生活もさみしさもある反面、一人でも楽しめることを見つけることができ、過ごし方にも変化が出てきた。また、Bluetooth スピーカーで音楽をつなぎ、友達と一緒に聞く時間を設けると、「カラオケ大会をしたい。」と考えるようになり、クラスメイトを誘い簡単な計画書を作成した。2学期最後のホームルームでは、対象生徒主催のカラオケ大会を開いて楽しむ様子が見られた。

(写真) Bluetooth マウスを操作している様子の A さん



(写真) 企画したカラオケ大会での A さん



活動③ 家族に、自分の気持ちや考えを、スタンプや言葉で伝える。



(使用したアプリ: 自分の考えを引き出すために活用したもの…サファリ, google アース, シンプルマインド)

: 伝えるツールとして使用したもの…LINE, メッセージ)



家族との連絡手段としてやりとりを行い、気持ちをスタンプや言葉で伝えることに取り組んだ。最初は、簡単なあいさつをスタンプでやりとりする程度であった。母から A さんを心配する言葉や質問に対しても、スタンプのみで返信していた。A さんが発信した後すぐに母から返信が来ることでスタンプ以外でも伝えたいことが出てくるのではないかと考え、母と LINE での時間を調整し、すぐに返信をしてもらうようにした。すると、7月頃から母の返信が楽しみになり、「元気？」と単語で発信することがあった。伝わっていることが分かる、徐々に自分の希望を言葉で依頼するようになった。病院での生活に必要なものやネットで調べた最新のゲームを母に頼み、届けてもらっていた。自分の依頼が叶い、「ゲーム届きました。」と満足そうに報告することもあった。また、受診日の確認をしたり新しく作った装具を写真で撮って送ったりして、会えない母と確認し合うことができるようになってきた。自分から2人の姉ともやり取りがしたいと話すようにもなった。そこで、姉を追加し LINE でやりとりするようになった。母以外の家族と繋がることで、より安心感が増したようであった。以前のように、泣いて黙ってしまうことがなくなった。



(写真) 家族とのやりとりの様子

総合的な探究の時間で、「地域で生活する私」という単元に取り組んだ。地域に何があるか google アースを使用して調べた。そして、自分の希望する生活を想像し、実現に向け考える学習に取り組んだ。シンプルマインドを活用し、調べてきた中で不安に思ったことやその中で感じた気持ちを言葉にして視覚化していった。すると、生活

する中で母の支援のみで生活していくことは母の負担になると考えた。そこで、地元の様々な福祉サービスについてサファリを使用して調べた。調べたことや疑問に思ったことは、LINE で母に聞いたり相談したりしていた。進路について、父と話をすることがなかったが、メッセージ機能を活用し連絡を取り始め、家族で卒業後について考えるきっかけになった。

また、会えない中でも、学習の様子や自分が作業学習で作った製品を LINE で家族に見せるようになり、コミュニケーションの方法が、スタンプや言葉、写真といった方法になった。以前は、入所中に家族と会えないことで淋しさが募り、泣いてしまうことがよくあった。新型コロナウイルスによる環境の変化から実践当初、そのようなことが予想されていた。しかし、iPhone を活用して繋がることで安心感を持つようになり、泣いたりせずに生活できている。学校で、家族に連絡をすることが楽しみになり、「早く学校に行きたい。」など自分の気持ちを病院との調整を担当する教員に話すようになった。現在も落ち込むことはあるようだが、すぐに気持ちを切り替えて入所先でも落ち着いて生活している。

活動④ 教師に自分の気持ちや考えを、スタンプや言葉で伝える。

(使用したアプリ:By Talk for School)

(登校できない月、水、木曜日の午前中のやり取り)



By Talk for School での伝え方の変化

- ・6月は5回のうちすべて教師からの発信に、ドロップトークの笑顔のスタンプか OK マークを返信していた。
- ・7月は14回のうち、スタンプのバリエーションが増え、悲しそうなスタンプを返信することがあった。「どうしたの。」と教師が言葉で返信したが、返信はなかった。
- ・8月は夏休み中を含め、18回やりとりがあった。徐々に、教師の質問に「元気です。」「暑中見舞いありがとうございます。」「みんなでカラオケしています。」などと、教師の質問に対して言葉で返信をするようになってきた。
- ・9月は8回だが、「みんなは元気ですか。」と友達のことを気にかける言葉を発信するようになってきた。
- ・10月以降になると、登校できない日はほぼ自分から「おはようございます。」と連絡するようになり、自分の今の気分をスタンプで伝え、教師からの質問に簡単な言葉で伝えるようになった。
- ・12月以降になると、やり取りが1回ではなく2回以上続くようになり、教師の冗談話に笑った表情の絵文字とともに「なんでやねん。」「すみません。」と言葉で返信するようになった。
- ・1月以降は、あいさつや天気、体調の話をした後に、スタンプで気持ちを表すようになった。教師とのやりとりを楽しんでいる様子が見られるようになった。

以上の活動以外の日常での変化

- ・人に慣れるまでに時間がかかる A さんであったが、担任以外の教員に自分から話しかけるようになってきた。「A さんから地域の方言を教えてくださいました。そんな話をする子なのですね。」「A さん、表情いいですね。」と A さんの変化を周囲の教員たちも感じ、担任にエピソードを聞かせてくれることが増えてきた。毎朝入所中の児童生徒の様子を確認する養護教諭からは、毎朝話しかけてくれるようになりましたと報告を受けるようになった。
- ・徐々に iPhone の操作に自信を持ち、学習の中で自ら iPhone の活用を申し出るようになった。学習中に自ら写真で記録することがあった。

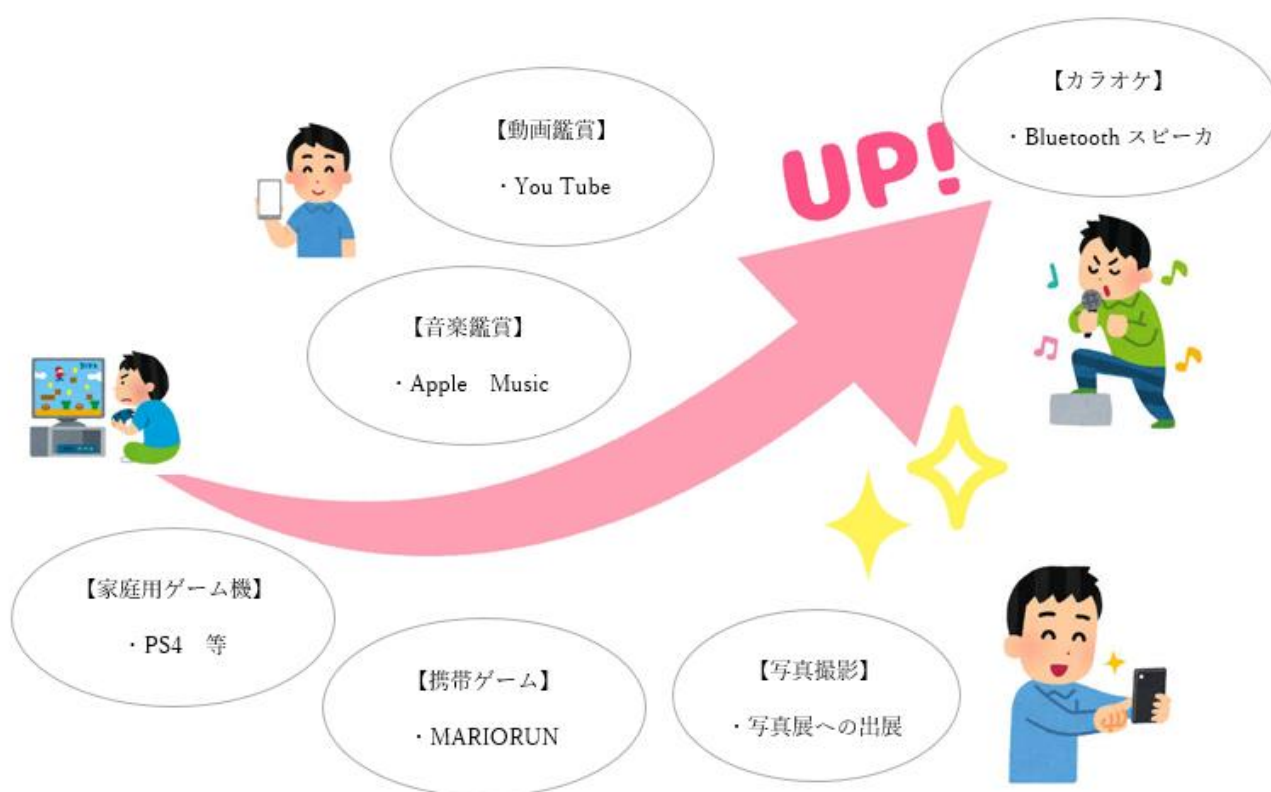
【報告者の気づきとエビデンス】

主観的気づき

- ① iPhone を活用して余暇活動を広げる取り組みをしたことで、自分で自信をもって操作できる余暇活動を見つけ、日常生活が充実したのではないかと。
- ② 1年以上家に帰れず、家族とも会えない状況であったが、iPhone で繋がったことが精神的な安定になった。安定した気持ちから卒業後の進路についても前向きに考えるようになり、自分で調べたことをもとに進路を選択する自主性がでてきたのではないかと。

エビデンス

- ① A さんの余暇活動の広がりを表している図



・実践当初は、A さんの余暇活動は自宅にある PS4 のゲームのみであった。実践を重ねて行く中で、操作に自信が付き iPhone のアプリにも興味関心を持つようになった。活動の中で、写真撮影や音楽鑑賞、携帯でのオンラインゲーム、カラオケなどの幅を広げることができた。

・特に、操作に自信が付き満足した気持ちで活用している 10 月頃からは、生徒の余暇活動がさらに充実し入所先でも Apple Music を活用して様々な音楽を楽しんでいた。同時期に、By Talk for School で自分から発信していた。学校生活でも前向きな発言や態度が多くみられるようになった。一人で操作できることへの自信や楽しく満足しているという生活への充実感が前向きな発言や態度になった要因の一つではないかと考えている。

② エピソード記録(本人, 家族への聞き取り, エピソード)

本人

・不安に考えていた進路について, 小学部, 中学部, 高等部1年時, 2年時のことを思い出しながら本人の気持ちについて聞き取りを行った。以下, 本人の言葉をまとめたものである。

小学部……………進路については何も考えていなかった。

中学部……………何となく卒業したら県外の入所先かと考えていた。嫌だった。

高等部1年……………進路について考えたくなかった。家族といたい。考えると涙が出た。

高等部2年6月……在宅で通所したい。でも, できないことも分かっている。仕方ないと思っていた。

高等部2年12月…同世代と過ごす場所に行きたい。

自分の体調のこと, 家族の支援について考えて進路先を選ぶことを決めた。

・進路について, 葛藤しながらも前向きに変化していったことが感じ取られる本人のエピソードである。

・iPhone での余暇活動が広がったことで, 自分だけではなく同世代の友達と共有していきたいと考えるようになった。以前は, 教師との関係ばかりであったが関係性が広がりつつある。この考え方が, 進路に関しても影響しているようである。

家族

・家族に A さんの進路についてどのように考えていたのか聞き取りした。以下, 両親の言葉である。

高等部1年……………在宅で通所する生活と県外の入所先で生活する2つの進路で悩んでいる。どちらかに決められない。

高等部2年6月……迷っている。本人にとって良い選択をしたいとは考えているが, 悩んでいる。

高等部2年12月…同世代の仲間と交流して欲しい。友達とかかわりあった生活を送ってほしい。

そのための進路先を, 家族で考え決定していきたい。

・A さんと家族が LINE のやり取りをしている中で, 「友達とも LINE のやり取りができるようになってほしい。」と母が話をしていた。iPhone を活用し楽しんでいる姿を見ての感想であった。A さんの, 自分のかかわりを広げていきたいという思いを家族も前向きに捉えていることが感じられるエピソードであった。

・進路相談を重ねた結果, 「転校して専門的な医療を受けたり同世代の友達を作ったりして生活していくことが A さんにとって必要である。」と A さん, 家族とが話し合い, 12月中旬に来年度の転校を決めた。その後, 転校を決めた A さんは, 「転校してカラオケに誘われたらどうしよう。」と新たな生活を前向きに想像している話をしてくれた。

その他エピソード

① 2020年6月, 10月, 2021年1月に, 本人に活用してみでの感想を自己評価するアンケートを実施した。

<iPhone の操作, 使用した感想, 今後の使用に向けての気持ちを1から5で自己評価したアンケート>

【iPhone 操作 1:難しい 2: やや難しい 3:先生とできる 4:一人でできる 5:簡単にできる】

【使用した感想 1:つまらない 2: ややつまらない 3:ふつう 4:楽しい 5:とても楽しい】

【今後の使用について 1:全く使わなくて良い 2:使わなくてよい 3:学校で使いたい 4:学校以外でも使いたい 5:いつでも使いたい】

表1 iPhone 使用について気持ちを5段階で自己評価した結果

	6月	10月	1月
iPhone の操作	3	5	4
使用した感想	4	5	なし
今後の使用に向けて	3	4	5

- ・操作については,概ね良好に使用できていたことが分かった。また, 使用してみでの感想についても,満足しているようであった。
- ・1月のアンケートで操作の評価が下がったり, 感想の数値に印をつけていなかったりした点については, 本人に聞き取りをして確認した。操作については一人でできることで満足している反面, 他の操作や機能は簡単にできるとはいえないと考え, 厳しくつけたとのことであった。また, 使用した感想について, 「今の iPhone では動作が遅いので, もっと良いものが欲しいので感想はつけません。」「もっと高性能の iPhone を買って欲しいので。」と話していた。iPhone が生活の一部になってきており, 今後の生活にも欠かせない存在のためもっと機能の良いものを使用していきたいという前向きな思いが感じ取られるエピソードであった。1月の誕生日には最新 iPhone を父親に頼み, 色や種類を LINE でやり取りして決め, 購入していた。

② 2月の父とのメッセージでのやり取りでは, Aさんが「仕事頑張る。」と送ったメッセージに「お頑張る。」という父からの返信がすぐにあった。その後, 父への返信に動物の笑顔のスタンプを何度も送っていた。「お父さんが返信くれるようになると, お母さんからこないんだよなあ。」と笑いながら話をしてくれた。家族とのやり取りの中でも, 自分の気持ちを伝えることができるようになってきた。

今後の課題と支援について

・今回の実践で, Aさんが見つけた余暇活動を同世代の友達とどのように広げていくことができるのが今後の課題である。同世代と楽しく生活していくためには, 自分はどうのように生活していくことが良いのか考え, 自分の考えや気持ちを恥ずかしそうにはあるが伝えるようになってきている Aさんに対して, どの環境でも自分らしい生活ができるように, ICT 機器を活用してもっと自信をつけていけるように残りの日々で支援していきたい。そして, 転校に向けて実践したことを引き継げるように, 関係各所と連携を図っていきたい。